

お茶の水女子大学と釜石市教育委員会との間で平成24年8月28日に締結した、震災復興に向けた連携協定に基づく理科教育支援活動の実施(平成27年3月2日)について

1. 目的

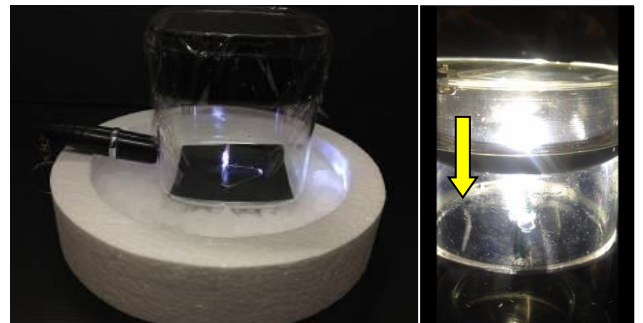
理科教育復興支援と大学-小・中学校との連携を目的に出前授業を行います。

2. 実施概要

お茶の水女子大学と釜石市教育委員会は、平成24年8月28日に震災復興に向けた相互協力に関する包括連携協定を締結しました。これに基づき釜石市内の小・中学校における理科教育振興の一環として3月2日に唐丹中学校にて、実験を含めた理科の出前授業を行います。

3. 実施日時： 3月2日(月) 10:40~11:30
場所： 釜石市立唐丹中学校 理科室
単元： 中学3年生「いろいろなエネルギー」

※写真は、放射線の飛跡を検出する装置「霧箱」
矢印は、放射線の飛跡



放射線観察装置「霧箱」

4. 支援の具体的内容

理科の教材開発、大掛かりな実験の実施は、教員への負担が大きいことも問題になっています。そこでお茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターでは、このような問題を解決するために、オリジナルの実験コンテンツを開発し、実施をサポートしています。

中3単元「いろいろなエネルギー」では、原子力発電について、燃料から発生する放射線への正しい知識を得ることが求められています。しかしながら、目に見えない放射線の存在を理解するための教材開発は、なかなか困難と言われていています。そこで、当センターでは、オリジナルの放射線観察装置「霧箱」を開発し、学校授業でも利用可能なものとして観察活動を提供しています。これにより、放射線が通った飛跡を目で見ることができ、数字や説明だけではなかなか実感が持てない放射線について、より理解を深めることができます。

5. その他背景など

東日本大震災以降、お茶の水女子大学のサイエンス&エデュケーションセンターは、岩手県教育委員会をはじめ、野田村、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の各教育委員会と連携し、被災した小・中・高等学校に対して、予めニーズを調査し、理科教材・教具の送付、理科教員研修・理科出前授業を通じて支援してきました。これらの実績が評価され、本年度からは文部科学省の特別経費等も活用し、岩手県下における理科教育復興支援を拡大・展開しています。

※ つきましては、是非実際の授業の様態を会場にて取材・報道していただけますようお願いいたします。なお、本件に対する問い合わせ先は、以下にお願いします。

お茶の水女子大学広報チームリーダー 柴田 正造 TEL: 03-5978-5104